

## 木のいえ一番ゼミナール木塾 経年で美化する建物を目指して

### 3. 木のいえを長持ちさせる(腐朽・蟻害) 理解度確認テスト

名前 \_\_\_\_\_ 理解度 \_\_\_\_\_ /100

Q. 動画内で紹介した木のいえを長持ちさせることについて、空欄に適切な語を記入、もしくは選択しなさい。 ※同じ番号が繰り返し出てくる箇所は、最初の番号に記載せよ

1. 木のいえを長持ちさせるために大切なことは、①( )と②( )から守ることである。

木が腐る原因は、空気中に存在している③( )が繁殖することである。③( )はどこにでもいるが、4条件がそろって初めて繁殖し、木が腐る。4条件とは、栄養となる木材、④( )、⑤( )、酸素であり、このうちコントロール可能なものは④( )である。

2. 腐朽しやすい箇所や腐りやすい部位、その対策について

#### ■腐朽しやすい場所

- デッキなどの水平な面や上向き亀裂の内部など水分が⑥( )する箇所。
- 木の重なり部分や接合部など⑦( )しにくい箇所。
- 地面の跳ね返り水のあたる箇所。
- 地面に近いなど⑧( )が多い箇所。
- 軒から⑨( 近い / 遠い )外壁下部など雨掛かりの多い箇所。
- 温度差による⑩( )が溜まる場所。

#### ■腐りやすい部位

- 木材の⑪( ) = 他部材と接していると、水が多く浸み込み乾燥しにくい部位。

#### ■設計対応

- 軒の出を⑫( 深く / 浅く )し、雨掛かりを少なくする。
- 軒先の雨だれの跳ね返り対策として⑬( )・⑭( )を施す。
- 雨どいが⑮( )と樋外部に水が伝い、固定金物から壁内部に水が浸入するので、雨樋にカバーを付けるなどして、落ち葉の季節や雨天時に点検する。
- 木材の木口から木材成分が染み出ることがあるので、汚れを防止するために、白壁は⑯( )階、木の壁は⑰( )階にする。
- 柱の足元の木口は、部材を密着させず⑱( )と乾きやすくお手入れしやすい。
- 母屋・垂木の木口は、⑲( )または胡粉で保護する。
- 部分交換しやすい納まりにする。

#### ■腐朽の抑制

- 水分が溜まる場所、水分を吸収する場所、乾きにくいところが腐るが、⑳( )を浸み込ませれば、抑制できる。
- 木材を㉑( )で使うと、腐朽危険箇所は分かりやすく、お手入れしやすい。

- ㉒( )発生の危険箇所・配管周りは点検できるようにしておく。

### 3. シロアリ被害の防止

- 基礎立ち上がり部分の㉓( )をチェックする。チェックしやすいようにまた風通しを確保するために、基礎をモノでふさがない。
- 地面と建物を結ぶ配管の㉔( )部分も注意。
- 春先の㉕( )に注意する。